

「小中一貫校」～八千代から新たな学校創造～

種 村 保

1 9年間を見通した新時代の義務教育への転換

小・中学校間の連携の重要性については、以前より広く認識されており、いろいろな地域で小中連携の取り組みが行われている。しかし多くの地域は中学校教員が出前授業を行ったり、小学生が中学校の行事に参加したりする程度で、効果的な小中連携に取り組んでいるとは言い難い状況である。

今月26日、中央教育審議会の答申において、令和の日本型学校教育の構築に向けた様々な提言が出された。その中の一つに「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方」という提言があり、2022年度を目途に小学校高学年から、外国語や理科、算数などの教科における教科担任制の導入が明記された。このことから、これからの義務教育においては小学校と中学校が形式的に連携をするのではなく、小中学校の全職員が一つになって、児童生徒を9年間かけて育てる教育が必要になるという意識に転換することが必要であると考えます。

2 本市における小中一貫校への取り組み

本市においては、子どもたちにとってより良い教育環境を整備することを目的として、八千代市学校適正配置検討委員会において検討を重ねている。その中で阿蘇地域小中学校の学校適正配置の進め方について、「阿蘇・米本地域小・中学校が未来を見据え、地域特質を十分に生かした小中一貫校「義務教育学校」として新しい教育のひとつのあり方を発信する地域となることを期待したい」との答申が平成27年度に出された。その後、教育委員会での検討や地域住民への説明会などを経て、昨年3月に八千代市議会において、令和4年4月に現阿蘇中学校の位置に施設一体型小中一貫校(義務教育学校)を開校することが採択された。現在は阿蘇・米本地域義務教育学校設立準備委員会を立ち上げ、学校運営部会・教育環境整備部会・通学安全部会・保護者地域連携部会に分かれ、開校に向けて様々な検討を行っている。

(各部会の取り組みについては、別添の設立準備委員会だよりを参照)

中教審の提言の中では、中学校教員など教科指導の専門性を持った教師によるきめ細やかな指導の充実などのソフト面に関する提言の他に、学校施設の複合化・共用化などの促進を通じた魅力的な教育環境の実現というハード面に関する提言もあった。阿蘇・米本地域においては、阿蘇中学校の校舎を活用した教育環境が整備される予定である。今後私達はその環境を最大限に生かした特色ある取り組みを実践していく必要があると考える。

3 特色ある小中一貫校(義務教育学校)の取り組み

今回阿蘇・米本地域に設立される義務教育学校は、前述のとおり一つの校舎で小・中学生が一緒に過ごす校舎一体型である。校舎一体型であることで、同じ職員室を全職員が使用することになり、綿密な連携を図りやすい環境になる。そこで、以下のような特色ある取り組みを行ってきたいと考える。

(1) 9年間を見通した特色あるカリキュラムの編成

県内初の義務教育学校である市川市立塩浜学園では「理数教育」と「塩浜ふるさと防災科」という2つに絞ったカリキュラムを編成している。阿蘇・米本地域においては外国籍児童生徒が多いことや、小学校において国語教育の研究を進めていることから国際教育を推進したり、自然豊かな地域の環境や歴史ある阿蘇地域の教育力を生かした環境教育を推進したりすることで、地域の方と共に新たな学校を創っていきたいと考える。

また阿蘇・米本地域は厳しい家庭環境にある児童生徒も多く、家庭学習の習慣の定着率は低い。学力の向上は、地域小・中学校の共通の課題である。阿蘇・米本地域義務教育学校では、できるだけ多くの教科において小学校高学年から専科教員による教科担任制や専科教員と学級担任による複数教員による指導を行うことで、学力の向上にも取り組みたいと考える。

(2) 多様な考えに触れ、切磋琢磨する機会の確保

阿蘇・米本地域の小学校では、多くの学年が単学級である。どの学校でも、様々な機会を活用して異学年交流を行い、多様な考えに触れる機会を確保する努力をしているが、他校に比べて多様な考えに触れる機会は少ない。また同級生の数が少ないことから、切磋琢磨する機会も多くはない。そこで阿蘇・米本地域義務教育学校においては、様々な行事や毎日の清掃活動、部活動や生徒会活動などを通して、多様な考えに触れたり、切磋琢磨する機会を確保したいと考える。

4 終わりに

以上が、今私が考える義務教育学校開校に向けて取り組んでいきたいことである。他にも、一つの校舎で、一つの職員集団で、そして9年間を見通した指導が可能な学校だからこそできる取り組みは、たくさんある。

市川市立塩浜学園を訪問した際に、校長先生から義務教育学校設立までも教育課程のすり合わせや行事の調整などで大変だったが、設立後に様々な問題が明確になり、それらを調整することの方が大変だったとのお話をいただいた。さらに、学校が落ち着き、真に特色ある教育活動ができるようになるまでには数年かかるとお話もいただいた。きっと阿蘇・米本地域義務教育学校においても同様のことが起きると思う。しかし教職員、保護者、地域が一体となって力を合わせ、みんなで地域の子供たちを育てていくような、温かい義務教育学校を創りたいと考える。